

# マイトーク MY TALK

## 第5号

発行：中央大学放送研究会OB会（会長／水上 虎馬雄）

住所：〒192-0351 東京都八王子市東中野742-1 中央大学放送研究会気付

発行日：平成11年7月1日



## 複合世代化するOB会の役割

初夏の日差しが眩しい6月10日、御茶ノ水の中央大学駿河台記念館でOB会幹事長の砂岡茂明さん（12期）にお会いし、情報社会への卓見とOB会運営の指針を伺いました。



拡大同期会を提案する砂岡幹事長

### ◆自然に恵まれた東京の分教場

私は昭和十六年十月に東京の大田区で生まれました。ちょうど日本が太平洋戦争に突入していった頃のことです。そこに四年ほどいましたが、戦火に追われて一時秋田県に疎開し、数ヶ月で東京に戻ってきて、現在の多摩ニュータウンに近い稲城長沼に小学校四年まで住んでいました。

当時は先生が不足していて、一、二、三年生が一緒に授業を受けていることがよくありました。学校というよりは分教場という雰囲気、自然も肥桶の

香も豊かな農村ですから、教育環境としては良かったのではないのでしょうか。

その後、再び大田区に移り住んで、中学、高校進みました。高校は都立八潮高校で、男子百人、女子三百人という、これもまた恵まれた環境で受験戦に気合が入らず浪人するのが普通でしたよ。私は工系志望だったので一浪する気でした。私は、体検査で肺に影があるとされ、無理な受験勉強せず文科系に進むことに決めたのです。

### ◆中央大学に七年間も在籍

私は、皆さんより中大の学生生活が長いんですよ。と言っても留年したわけではなくて、始めは経済部に入って順調に卒業したのですが、すぐに理工部の二年に入り直し、結局通算七年間お世話になりました。やはり、高校時代の理工系の夢は捨て切らなかったですね。

理工学部では管理工学科に籍を置き、初めてコンピュータに出会いました。NECの最新鋭機だったので、大きな図体のうえプログラムもかなり雑で、現在のパソコンと比較すると隔世の感があります。経済学部時代は教室より放研の会室に顔をしていた方が多かったのですが、理工学部時代は業に追いかけて熱心に勉強をしましたよ。

両親が教師でしたから理解は有りましたが、さうがにそこまで世話をかけたくなって、理工学部は間部に入り、昼は自宅で学習塾を開いて学費を稼ました。近所の小学生を集めて、授業の補講をやたり宿題をやったりするのですが、当時は小学生は算盤塾くらいしかなく結構繁盛しました。

## ◆デンスケを担いで救急車で取材

私は、昭和三十五年に大学に入学し、すぐ放研に入会したのですが、まず随分大所帯だなあと感じました。当時で百二十名くらいだったでしょうか、数多くの先輩が嬉々として活動しているのに圧倒されたものです。ちょうど直前に新館の地下に音楽鑑賞室と録音編集スタジオが完成し、週一回の「リズムアワー」が定着した頃です。先輩の話には、アンプやテレコが無い貧しい思い出話が多いのですが、私は恵まれた環境からスタートしたわけですね。

私は、好きな技術を担当していました。技術部は人数が少なく、活動のあらゆる分野に携わりました。たしか同期の及川くんの担当で、交通事故の悲惨さをテーマに録音構成を制作したことがありますが、重いデンスケを担いで救急車に乗せてもらったり、現場で取材をしたり、交通戦争の実態に迫る貴重な体験が今でも記憶に残っていますよ。

私は、経済学部を卒業してからも理工学部の学生だったのですが、理工時代はあまり放研に顔を出さないうちにいました。既にOBの立場ですから、あまり顔を出して現役に気を使わなくなかったのです。しかし、たまには、マイクの種類による録音方法の違いなどを、現役に技術指導することはありました。

## ◆NTTで情報化時代を推進

いよいよ昭和四十二年に長かった中大を卒業するわけですが、就職先はNTT、当時の電電公社を選び、放送関連には進みませんでした。放送は一方的

を交換するわけで、これからは通信が世の中を変えていくのではないかと考えたからです。

入社当時は、またファックスも実用化されていない時代でしたが、昭和四十年代後半から電話の世界も大きく様変わりを見せ始めました。プッシュホンの登場でダイヤルが楽になり、リダイヤルが可能になり、キャッチホンでお話中が無くなるなど、今ではあたりまえのことが先進サービスとして次々と提供されたのです。

私の発案したサービスで「トリオホン」というのがあります。これは、電話を二人だけでなくもう一人加えて三人で話ができるというもので、企業の電話会議に絶好だと思ったのですが、残念ながらあまり売れませんでした。

また、放送と通信との融合という視点で、ラジオ放送をテレホンサービスで流すことも試みました。これはラジオ日本と提携したのですが、かなり大きな反響がありました。ご承知のとおりラジオ日本は競馬中継に力を入れて放送されており、各レースのスタート時間になるとワーツと電話が殺到し、ゴールするとスーッと退いていく現象が見られ、固定ユーザー層が確認されたのです。ところが、放送電波は到達エリアが限定されており、それに基づいて野球や競馬の放送権利も設定されているのですが、電話で中継するとすると、極端に言えば全世界にまでエリアが広がってしまいます。この部分にいろいろと複雑な問題が出てきてしまい、残念ながら一年間の試験期間だけで中止になってしまいました。

## ◆新しい通信を開拓する柔軟性

通信の世界はどんどん広がっていきます。従ってそれに携わっている人はさらに柔軟性を持たなくてはなりません。昭和六十年に旧電電公社が民営化されてNTTになりましたが、これに伴って新風を入れる様々な試みがなされました。

社内ではダイナミックグループと呼んでいるシンルマークや、NTTと横文字で表示するロゴタイプなど、それまでの公社体質では受け入れられ難いIが採用されました。また、岩谷時子作詞、前田男作曲の斬新な社歌も登場しました。私は大賛成だったので、まだ社内には疑義を唱える古い世もかなりいたようですね。

携帯電話、PHSの爆発的な普及にも、柔軟な応が必要とされます。私は、個人的には電話に縛れるのは嫌いなのですが、立場上携帯電話を持つ歩いています。若い世代の電話文化は急速に携帯シフトされていますから、その中でどんなサービス機能が求められているか、自ら体験してみることが重要なことです。有線電話は百数十年の歴史を持っているのですが、携帯電話はほんの数百年の蓄積しかりません。マナーの問題も含めて、本当の文化をくのはこれからですね。

## ◆各期の活性化がOB会のエネルギー

私は放研の十二期ですが、卒業以来三十数年間全国に散っている同期が毎年なんらかの形で顔をわけています。初めの頃は集まる人数が不確定だったのが、最近では確実に頭数が揃いますので、だんだん時間を自分でコントロールできる年代になったのだと思います。

せつかったわけです。OB会で当面の課題は、若い世代の参加を積極的に促進することです。OB総会、周年行事、幹事会などに、もっと若い方々の参加を呼びかけたいのです。結婚、子育て、転勤など集まり難いライフステージの場合もあるでしょうし、親子以上に年齢の離れたOB会の構造に問題があるのかも知れません。一体感を醸成する一環として、補助的に世代別OB会を開催するなど、いろいろと工夫してみたいと考えています。

いずれにしても、各期の活性化がOB会の盛り上がり大きなエネルギーとなりますので、各期の幹事の方々のご協力をお願いします。これは十二期の経験でお勧めするのですが、拡大同期会を催すのも一案です。自分たちの期の前後に声をかけて集まれば、人数も多くなり話題も増すもので、十二期ではこの方法で台湾旅行まで実施しています。

### ◆相互交流の場とJPOB会

私は通信の分野で三十年間仕事をしてきましたが、相互にコミュニケーションする技術は格段の発達を遂げ、今後も限りなく進化していくと思います。しかし、インターネットや携帯電話の技術がいかに進んだとしても、それを利用する人間が孤立してはいけなにもなりません。やはり、相互に会って、交流する場が必要になるのです。

若い世代が、今はOB会に対する関心が少なくとも、いつか相応の年代になった時、きっと関心が高まるものと思われれます。その時に、続けていて良かった、入っていて良かった、と感じられるようなOB会を、おせっかいのようですが、なんとか維持していくのが私の役目だと考えています。

(インタビュー 金野)

### 第二回定例総会開催

昨年七月二十五日、創立四十五周年記念パーティーに先立って第二回OB総会が開かれました。

金野前幹事長から開会の挨拶の後、北島前副幹事長を議長として、当期活動報告、当期会計報告、監査結果報告と議事が進行し、全員の拍手で承認されました。

続いて、十四期の榑崎さんから、ゴルフ会をOB会の正式行事にする提案

があり、

「OB会も七百人を数える大所帯になると、会員相互の意志疎通、親睦と言ってもなかなか難しいものがあります。各期、各世代を超えて、共通の趣味、スポーツなどを通じて交流を活性化する時期ではないでしょうか」

との主旨説明と詳細な「ゴルフ部会会則」が配布され、満場の拍手で決定されました。

次に役員改選に移り、金野前幹事長より会長、副会長、監査人の留任と新幹事長、新副幹事長の人選が紹介され、大きな拍手で承認されました。

#### 【第三期組織体制】

会長	雄馬 (1期)
副会長	義雄 (6期)
顧問	敏子 (8期)
特別顧問	利稔 (12期)
幹事長	雄明 (13期)
副幹事長	根子 (14期)
事務局	美宏 (20期)
広報担当	優二 (15期)
会計担当	涼守 (15期)
監査人	貞己 (24期)
	子進 (5期)
	文進 (11期)
	昭次郎 (11期)
	上田 (11期)
	水清 (11期)
	石河 (11期)
	熊倉 (11期)
	植松 (11期)
	加賀 (11期)
	砂岡 (11期)
	柳崎 (11期)
	松原 (11期)
	金野 (11期)
	富田 (11期)
	田中 (11期)
	竹間 (11期)
	藤河 (11期)
	斎合 (11期)

### メモランダム

「私は小学校三年の夏休み工作で、当時はまだ貴重だったラジオを組み立てたんです。ラジオから音がでた時、放送への興味が始まりましたね」

もの静かに語る砂岡さんの目には、当時のラジオ少年の好奇心が今もなお輝いています。

「大学で放研に飛び込んで、好きな技術に熱中して、親を口説いて理工学部に入り直して、通信の将来性に引かれてNTTに就職して、なんとなく好きな道を歩いて来ましたよ」  
淡々としながら芯の強い話しぶりには、二十一世紀の情報社会に対する鋭い視線が感じられました。



ゴルフ部会を説明する榑崎さん

# AGILITY

## OBアクティビティ

### 第二回ゴルフ大会に二十七名が参加

東京都 14期 榎崎宏一

十一月三日、文化の日のジンクスどおり、晴天に恵まれた栃木県は益子町の名門「益子カントリークラブ」で、放研の第一回ゴルフコンペが実施されました。朝九時、本日の紅一点十二期の近内さんに乗せた車を最後に全員集合。

今日の優勝を狙って、早くもウォーミングアップで柔軟体操を行う者、パター練習場で一所懸命に芝目を読む者、参加することだけに意義を感じ、ゆっ



優勝カップを受ける藤原さん

くりモーニングコーヒーを楽しむグループ。それぞれが、様々の思惑を抱いて、まずは、幹事の榎崎の司会で、開会式を開催。二期の競技委員長 桃川さんのルール説明を終え、ティーグラウンドに集合しての記念撮影。

カメラマンは、この日、ゴルフをせずに写真だけのために駆けつけて下さった四期の榛葉さん。プロ用のフジカを持参、同期の武居さんの応援を得て集合写真を撮り終えました。

続いて、水上会長による始球式は相変わらずの手堅いショット。(いつもより緊張ムードが漂っていたのは、優勝を狙っていたのでしょうか。)

年に七十ラウンドは回る人、二年振りにクラブを握る人など、それなりのティーショットで無事にスタートを切りました。

気温は暑くもなし、寒くもなし、パートナーは気心知れた、OB会員。こんな絶好のコンディションに恵まれても、スコアはまとまらないのが、ゴルフでしょうか。「・・・れば」、「・・・たら」、「・・・はず」を連発していた御仁もいらっしやいました。

ともかくにも、和気あいあいのうちにラウンドを終え、表彰式・懇談会に。

記念すべき第一回の優勝者は、八期の藤原さん。前の日から泊まり込みでの意気込みが優勝につながったのでしょうか。「水上杯カップ」(水上会長の寄付による。持ち回りで後刻レプリカを贈呈)と優勝





心は小学生になり…

昨年七月二十五日、四十五周年記念パーティーの興奮？を、新宿のホテルサンルート東京に持込み、徹宵で恒例の同期会を開催しました。取りたてて趣向は何もなく（酒肴だけで）深夜までの談論風発は毎年ながら「こわい」ほどの楽しさでした。翌日は、五十代後半とはいえ活力溢れると自任す

### 十二期十三期会の同期会

（新宿&デイズニランド） 東京都 12期 若尾英樹



なんと初めての人も…

途中スコールのような驟雨に見舞われましたが、「帰ろう」と言い出す者は無く、間違って乗ったジェットコースターでは、きゃーきゃーワイワイ幼稚園並み。とにかく童心に帰ったひとときでした。行ったことのない方、是非とも機会をみてどうぞ。

るメンバー八名（内、淑女一人）が東京デイズニランドに挑戦（四名は初入園）しました。最初は見学だけで帰ろうと内心で思っていた御仁が、一番ノリが良く、大満足で名古屋に帰ったみたいです。



賞品の「ゴルフバッグ」の授与が行われました。「優勝インタビューは職業柄慣れていますが、優勝の感想を語るのはめったに無いこと」と大変照れていました。準優勝は、十一期の大高（旧姓馬場）

さん。所属するクラブのチャンピオンになったというだけあって、スコアはベスグロの七十九。ニアピン、ドラコンも獲得。大阪から駆けつけハンディーの腕前を披露してくれました。全員に各賞と景品

（参加メンバーが賞品・ノベルティや現金を寄付したもので総額は、二十万円位）が水上会長から手渡され、喉の渇きも潤ったところで、次回の再開を約束し、家路につきました。

# ACTIVITY

現役アクティビティ

## 【新会員四十名を迎える】

この春、私たちは四十名の新会員を迎え、福岡裕典委員長をはじめとして精力的に会活動に励んでいます。新人はかなり入ってくるのですが、辞めていく人もあり、会員数は平均して七十人前後になっています。

五月二十二日から二十三日にかけて、河口湖で恒例の新人歓迎合宿を実施しました。夏の合宿とは違って新入会員との親睦が目的ですので、一日目はゲームと飲み会、二日目は富士急ハイランドで遊びまわりました。総勢五十人余りがペンションで深夜まで



サテスタの  
名DJぶり

飲んで語り明かしたことで、新人もすっかり会に馴染んだようです。

## 【春の番組発表会盛況に終わる】

新歓合宿に先立ち、四月二十九日に「春の番組発表会」を開催し、学内外から五十人の観客を集めて盛況のうちに終了しました。

これは、春と冬に研究成果を発表する場として定例化しており、一般教室にステージを設営してアンソンス部が公開DJをやったり、映像部が創作映像を流したり、日頃の活動の集大成として張り切って取り組んでいます。これに惹かれて入会する人も多く、放研の良いPRの機会になっています。

## 【白門祭にも積極的に参加】

昨年になりますが、十月三十一日から十一月三日に催された白門祭にも例年のように参加しました。すっかりお馴染みになったCHKサテライトスタジオと、これも毎年好評の名物「みそ煮込みうどん」の屋台を一、二年生が主体で運営しました。

人気のあったのは、フリの特技と歌の上手さが総合評価される「フリカラオケ」。次々に登場する自己満足のワンマンショーに、会場から盛大な笑いと拍手が湧き起りました。

## 【CMがNHKで放送される】

最近のトピックスですが、私たちの制作したCM



花見で大雨になりみんなで避難

が、なんとNHKで全国に流れました。

これは、NHK・BS-1がこの六月六日から一週間特集した「アストロファンタジー・今日は？曜日」の中で、学校対抗「曜日CMコンテスト」に応募した日曜、月曜、水曜、木曜の四作品が合格して放送されたものです。各曜日を三十秒でアピールするCM制作は、テレビ世代の私たちにとって貴重な経験となりました。

◆ ◆ ◆  
私たちは、創立四十六年の歴史を持つ中央大学放送研究会をさらに発展させるべく、楽しく、時には苦しみながら活動しています。OBの皆様も、機会があればぜひ現役の活動をご覧頂きますよう、お願い致します。  
(OB会担当・佐藤雄二)

# 長信・短信+

風のうわさ

## 7期 立崎則定さん

最近、環境庁のパークボランティアに参加して、ぼちぼちと十和田・八幡平の自然を守る活動をしています。県内で七十名くらいのメンバがいるのですが、私が最高齢者に近いです。山歩きをしながらゴミを拾ったり、頼まれれば山のガイドをしてみたり、それなりに充実しています。

趣味の写真は、あまりやらなくなりました。私は景色より花や植物を撮るのが多く、庭にキツツキが来たので追いかけてきましたが、年ですから生き物を撮るのは大変です。

山口の塚本くんが、今年の年賀状に同期旅行を計画すると書いてきたので楽しみにしていたのですが、諸々の事情から無期延期になってしまいました。



## 14期 浅見一策さん

マイトーク編集長の金野さんから「十四期の方は同期で何処か旅行に行かれていますか」と電話を戴きました。「残念ながら一度もありません」と答えただのですが、号を重ねるマイトーク誌上で各期の同期会の集い、旅行記が楽しく載せられており、特に我々前後の期の方々の活発な動きは、大変なものだ

なあと感じています。

その様な中であって、我が十四期はどうか！という、これが結構、時にふれ、折りにふれ、飲んだり食べたりしているんです。現役時代から十二期、十三期の尻馬に乗って、海だ、山だ、飲み屋だとあちらこちら付いて回ったポリシーは社会に出てからも変わらず、先輩からのお呼びがかかると、伊豆だ、伊良湖だ、やれ関西、名古屋、札幌、山梨、台湾だと、誰かしらが参加して楽しんでいきます。このパターンは今後も続くことでしょう。

それはさておき、最近の十四期の動向ですが、今春、ニュースステーションでお馴染みのテレビ朝日で報道局長の要職にある早河洋くんが、国会に参考人として呼ばれるという椿事が起きました。皆さんご存じの、所沢周辺で起きたダイオキシン問題です。思わぬ事態で、当のご本人はさぞかしくたびれた事でしょう。一件落着した四月初旬、同期で早河くんのご苦勞さん会をやることになり、急遽、都内在住で連絡のとれた八人ほどが湯島天神近くのうどん屋さんに集合しました。当日の裏話を酒の肴にミニ同期会が盛り上がり、いつもの通り二次会まで行かないと終わらない好き者の集団、近くのホテルのラウンジで飲み納め、上野の森に桜吹雪の舞う夜でした。また、OB会ゴルフ幹事の檜崎くんが、十五期の富田くんと忙中忙の間をぬって七月のゴルフ大会開催に汗を流していますので、盛会に向けて応援したいと思っています。

今年の十月下旬には、同期初の一泊旅行を、山梨で教頭先生をしている小田切邦彦くんが幹事で挙行する予定です。この顛末は次号でレポートしますので、ご期待下さい。

# がんばってまゝです。

東京都 15期 大村隆広

東京に住みながら、職場が逗子のため、なかなかOB会の催しに参加できずご無沙汰しております。

四月三日、逗子に同期が八人集まり、披露山公園に花見に繰り出しました。今年は気温が低く花も五分咲きでしたが、桜の下にビニールを敷き、アルコールで体を温める典型的な花見を満喫。夕方には麓に下り、知る人ぞ知るピッコロパározで豪華ディナーを楽しみました。

横須賀線の逗子駅から歩いて五分のところ「ラグーナ・Z」というブティックを開いておりますので、お近くにいられたら、ぜひお立ち寄り下さい。



イタメシで乾杯

# ホワイトボード

## 【今期初幹事会開催】

去る二月二十七日、駿河台記念館で二十一名の幹事が出席し今期の初幹事会が開かれました。席上、砂岡幹事長より、OB会の永続性を基調に二十一世紀へ向けて安定と発展を図るために、

- ① 財政基盤の確立（安定した会費の収入）
- ② 役員選出体制づくり（次期役員の育成）
- ③ 会員増強策（世代年代を超えた活動策）

を重点課題として運営する方針が提示されました。

先のOB総会で空席のままになっていた副幹事長は、幹事会の互選により十三期の柳田美根子さんに決定しました。放研は女性が多いサークルで、それに伴ってOB会も女性の比率がかなり高くなっています。柳田さんのネットワークにより、女性会員の一層の緊密化を期待します。

創立四十五周年記念事業の決算が実行委員長の金野さんから報告され、監査人の監査結果を経て出席幹事全員で承認されました。（別掲参照）

記念事業には、OB会費から援助金が支出されており、通信費、会議費などに共通の部分もあるため、平成十年度のOB会決算に記念事業費として繰り入れ記載することになりました。

## 【OB会費納入のお願い】

今期運営方針の一つに掲げられた「財政基盤の確

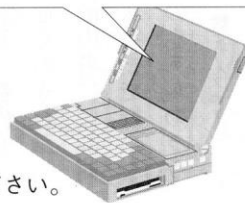
立」は、永続性を基調とするOB会にとり重要な課題です。OB会の財源は、会員各位の会費のみに依存しており、安定した会費の収入が図れないことには、運営はおろか会の存続すら危うくなります。会則に定められているとおり、会費は年間二千元とし、三ヶ年分の六千元を一括して納入することが原則になっています。対象期間はOB会が開催される年度を一年目とし、次のOB会の前年度までの三ヶ年が一期です。今期で言えば、平成十年分から十二年度までということになります。

今回のマイトークに同封して、専用のOB会費振込用紙をお送りしておりますので、ぜひお早めに振り込みをお願い致します。

●OB会ホームページのアドレス決定

<http://www.g1box.co.jp/chk>

※7月21日以降にアクセスしてください。



### 平成10年度 中央大学放送研究会OB会決算書

収入の部		金額
会費		293,740円
45周年記念事業		2,458,000円
前年度繰越金		2,197,968円
合計		4,949,708円

支出の部		金額
会議費		80,729円
通信費		275,340円
事務費		5,197円
印刷代		307,150円
慶弔費		30,000円
会員名簿		147,000円
45周年記念事業		2,896,193円
次年度繰越金		1,208,099円
合計		4,949,708円

会費は47人  
 平成11年7月1日 会計 齋藤 進（5期）  
 河合昭次郎（11期）

### 中央大学放送研究会創立45周年記念事業決算報告書

収入の部		金額
参加者会費	(158名分)	2,338,000円
寄付金	(2名分)	120,000円
OB会費援助金		438,193円
合計		2,896,193円

支出の部		金額
記念式典費	会場費・飲食費(看板、パネル、花等含む)	2,001,690円
記念事業費	OB会ホームページ制作	150,150円
	マイトーク記念号発刊	237,720円
記念品費	現役記念品	278,250円
通信費	マイトーク記念号・新住所録発送(615名分)	167,330円
	当日プログラム制作	21,000円
式典関連費	当日写真撮影等	20,000円
	幹事通信費・振込料・その他	20,053円
事務局費		20,053円
合計		2,896,193円

平成11年2月27日

本決算報告書の内容は適正であると判断されます  
 OB会会計監査人 齋藤 進 / 河合 昭次郎

## 編集後記

早いもので、創立四十五周年記念パーティーから一年が過ぎようとしています。あの時の熱気は、昨年未のカラー版「マイトーク記念号」でご報告させて頂きました。その関係で、今回の第五号掲載のニュースが、やや古くなっておりますことをご了承下さい。

年二回のマイトークに、できるだけ多くOB各位の情報を掲載したいとがんばっていますが、いつも時間の余裕がなく、突然の原稿依頼や電話取材でご迷惑をおかけしております。

砂岡編集長の方針でもある「世代間のコミュニケーション」のために、マイトーク誌上が有効に活用できれば幸いと思っていますので、今後ともご協力をお願い致します。

（幹事一同）